



交通誘導警備業務2級

学科試験対策ポイント

【第1章 警備業務の基本的事項】

第1章 警備業務の基本的事項

第1節 警備業務実施の基本原則

第2節 警備員の資質の向上

第3節 礼式と基本動作

第1節 警備業務実施の基本原則その①

警備業は「**生活安全産業**」として急速に発展し、国民に深く定着してきた。

警備業とは「**他人の需要**」に応じて人の生命、身体、財産等に対する
危害の発生を警戒し、防止する業務をいう。

※「**他人の需要**」とは、他社との契約のことで、自己警備やボランティアは警備業とは言わない。

第1節 警備業務実施の基本原則その②

交通誘導警備業とは、他人の需要に応じて、人の車両の通行のある場所における負傷等の事故の発生を警戒し、防止する業務をいう。

また、誘導を受ける側の「**自発的協力**」が得られるように業務を実施する。

※「**自発的協力**」とは、こちらからの強制・命令ではなく、相手に協力をお願いする業務であることをいう。

第1節 警備業務実施の基本原則その③

駐車場や工事現場等の**管理者**は、交通の渋滞を発生させることのないように、

「保安要員」を配置するなどの措置を講じなければならない。

また、保安要員は専門の知識と技術を有した警備員に任せるほうが、より交通の安全と円滑な通行が図られることからその業務を**警備業者に委託**している。

※管理者は保安要員の配置義務があるが、必ずしも警備員である必要はない。

第1節 警備業務実施の基本原則その④

警備業者及び経緯日員は警備業法により**特別に権限は与えられていない**。

公的権限を行使得る**警備業務**とは「**本質機的に異なり**」私人いわゆる管理権等の範囲で行わなければならない。

※「**本質的に異なる**」とは、警備業と警察業務は目的が全く違う業務だという認識が必要となる。

第1節 警備業務実施の基本原則その⑤

警備員は、他人の権利及び自由を侵害し、**個人・団体の正当な活動に干渉してはならない。**

「**職務質問の禁止**」: 私人として許される範囲のみ

「**取り調べの禁止**」: 犯人を調べることは許されない

「**交通整理の禁止**」: 任意であり、強制力はない

※行き過ぎ等による違法、不当事案を防止するため、他人の権利や自由を侵害するような行動や活動への干渉は一切禁止されている。

第1節 警備業務実施の基本原則

～テスト対策～

- ① 他人の需要に応じるのが警備業なので、「**自己警備**」や「**ボランティア**」は誤り。
 - ② 管理者は保安要員を配置しなくてはならないが、「**必ず**」警備員である必要はない。
 - ③ 警備業務は警察業と本質的に違うので、「**警察同様～**」などのワードがあれば誤り。
- 職務質問や取り調べ、交通整理などは警察の業務となるので、「**職務質問をした**」などのワードがあれば誤り。

第2節 警備員の資質の向上その①

警備業者は警備員に対して専門的な教育と、必要な指導及び監督を行う義務がある。

教育事項や**教育時間数**等が定められているが、従事経験や検定等の状況によって**減免**される。

また、警備員指導教育責任者制度により、営業所ごとに警備業務の区分ごとに警備員指導教育責任者を選任することとある。

第2節 警備員の資質の向上その②

都道府県公安委員会は、その知識及び能力に関する検定を行い、合格した者に対し種別ごとに**合格証明書を交付**する。

また、特定の種別の警備業務については一定の基準で検定合格警備員を配置しなければならない。

※合格証明書を交付するのは都道府県公安委員会。

国家公安員会ではないので注意。

第2節 警備員の資質の向上その③

検定が行われる種別：①空港保安警備業務 ②施設警備業務 ③雑踏警備業務
④交通誘導警備業務 ⑤核燃料物質等危険物運搬警備業務
⑥貴重品運搬警備業務の**6種**であり、それぞれ**1級**と**2級**の区分がある。

1級検定は、当該警備業務の2級の合格証明書の交付を受けた後、**1年以上**従事しなければならない。

1級：統括管理者

2級：現場リーダー

として期待される

第2節 警備員の資質の向上その④

合格証明書が交付されない該当者：

- ① **18歳未満**のもの
- ② 警備業法第3条の第1号から第7号までのいずれかに該当する者
- ③ 合格証明書の返納を命ぜられた日から起算して**3年**を経過しない者

警備員は**合格証明書を携帯**し、警察官や委託者からの請求があった場合は、
提示しなければならない。

第2節 警備員の資質の向上

～テスト対策～

-
- ① 警備員の教育時間は**新任教育の場合**、警備業務の従事経験や警備員検定等の資格保有者状況によって**減免**される。
 - ② 合格証明書を**交付できるのは都道府県公安委員会である。**
 - ※ **国家公安委員会**ではないので間違えないようにすること。
 - ③ 合格証明書が交付されない者は「**18歳未満**」で、19歳は交付されるので「**未成年**」ではない。
 - ④ 合格証明書は**携帯義務**があり、**コピー**は不可。

第3節 礼式と基本動作その①

節度ある礼式、服装や身だしなみは委託者だけではなく、周囲の人たちの注目の対象であり、警備員に対する信頼も高まる。

敬礼は通常、受礼者の答礼が終わってから元に戻りますが、号令がある場合はそれに従う。

脱帽時は受礼者が明らかに認める距離で行い、受礼者を注目し、**上半身を約15度**に傾ける。

着帽時は**約6歩離れた所**で挙手注目の敬礼を行う。

人差し指と中指を帽子の前ひさしに当てる。

第3節 礼式と基本動作その②

①基本姿勢「気をつけ」:

両かかとを揃えて**両足先を約45度**に開いて外に向ける。

両ひじは自然に垂れ、手のひらをももにつける。

②休憩「休め」:

その場で**左足を約20センチ**横に開き、体重は両足にかける。

手は後ろに回し、右手の甲を左手でつかむ。

第3節 礼式と基本動作その③

③方向転換：「右向け右」「半ば右向け右」「左向け左」「半ば左向け左」

回転側の足のかかとと、反対側のつま先を軸として、90度(半ばは45度)向きを変える。

④「回れ右」:

右足を斜め後ろに引き、両足のかかたとを軸に180度右に回る。

右かかたとを左足かかたとにつける。

第3節 礼式と基本動作

～テスト対策～

- ①脱帽時の敬礼は、**上半身を約15度**傾ける。
- ②着帽時の敬礼は、**約6歩の距離**。
- ③気をつけの合図は、両足を**約45度**開く。
- ④休めの合図は、**左足を20センチ**開く。
- ⑤右向け右、左向け左の回転軸側のかかとと反対側のつま先。
- ⑥回れ右は、**両足かかとを軸**にして回る。

模擬テスト①

- Q-① 車両の誘導は、ひとたび誘導ミスの原因とする交通事故が発生すると、社会に大きな影響を及ぼすため、強制力のある誘導を行えるように心掛ける。
- Q-② 検定2級の合格証明書の交付を受けた者は、当該現場の統括責任者としての役割が期待されている。
- Q-③ 警備業務とは他人の需要に応じて行うだけではなく、自己の為に自己の業務として行う自家警備も含まれる。

模擬テスト①答え

Q-① 車両の誘導は、ひとたび誘導ミスの原因とする交通事故が発生すると、社会に大きな影響を及ぼすため、**強制力**のある誘導を行えるように心掛ける。

A:強制力はない

Q-② 検定2級の合格証明書の交付を受けた者は、当該現場の**統括責任者**としての役割が期待されている。

A:2級は現場リーダーとしての期待されている

Q-③ 警備業務とは他人の需要に応じて行うだけでなく、自己の為に自己の業務として行う**自家警備**も含まれる。

A:自家警備は他人の需要ではないので警備業ではない。

模擬テスト②

Q-④ 警備業務とは、公共の安全と秩序の維持にあたる警察活動と本質は同じであるが、その業務を行うに当たっては、警備業者及び警備員には特別な権限は与えられていない。

Q-⑤ 経験者を指導するときは、慣れから生じるおごりや過信、礼節の欠如などが見られれば強制指導を行うが、自己流でも危険性がなければ指導は行わない。

Q-⑥ 未成年者には合格証明書の交付は行わない。

模擬テスト②答え

Q-④ 警備業務とは、公共の安全と秩序の維持にあたる警察活動と**本質は同じ**であるが、その業務を行うに当たっては、警備業者及び警備員には特別な権限は与えられていない。A:警察業務と警備業務は本質的に違う

Q-⑤ 経験者を指導するときは、慣れから生じるおごりや過信、礼節の欠如などが見られれば強制指導を行うが、**自己流**でも危険性がなければ指導は行わない。

A:自己流ではなく基本と会社のルールに従う。

Q-⑥ **未成年者**には合格証明書の交付は行わない。

A:交付が行われないのは未成年ではなく、18歳未満。

模擬テスト③

Q-⑦ 検定が行われる警備業務の種別は、施設警備業務、交通誘導業務、雑踏警備業務、核燃料物質等危険物運搬業務、機械警備業務、空港保安警備業務、身辺警備業務の7種類である。

Q-⑧ 検定合格警備員に実施させる必要がある警備業務を行うときは、当該警備員に合格証明書のコピーを携帯させなければならない。

Q-⑨ 警備業務対象施設内等において、不審者を発見した場合は、警官のような職務質問をしなければならない。

模擬テスト③答え

Q-⑦ 検定が行われる警備業務の種別は、施設警備業務、交通誘導業務、雑踏警備業務、核燃料物質等危険物運搬業務、機械警備業務、空港保安警備業務、身辺警備業務の**7種類**である。A:検定試験がある警備業務は6種類(※身辺警備は除外)

Q-⑧ 検定合格警備員に実施させる必要がある警備業務を行うときは、当該警備員に合格証明書の**コピー**を携帯させなければならない。

A:コピーは不可。合格証明書は携帯義務がある。

Q-⑨ 警備業務対象施設内等において、不審者を発見した場合は、警官のような**職務質問**をしなければならない。

A:警備員は職務質問等が禁止されている。

模擬テスト④

Q-⑩ 工事現場の管理者自ら保安要員を配置するよりも、専門の知識及び技術を有した警備員に任せる方が、高水準の安全が確保される事から、その業務を必ず警備業者へ委託している。

Q-⑪ 検定には種別ごとに1級と2級の区別があり、1級検定は当該警備業務の2級合格証明書の交付を受けた後、3年以上従事しなければならない。

Q-⑫ 警備業はボランティア活動で行った事故防止業務も含まれる。

模擬テスト④答え

Q-⑩ 工事現場の管理者自ら保安要員を配置するよりも、専門の知識及び技術を有した警備員に任せる方が、高水準の安全が確保される事から、その業務を**必ず**警備業者へ委託している。A:保安要員の配置義務はあるが必ず警備業者でなくてもよい。

Q-⑪ 検定には種別ごとに1級と2級の区別があり、1級検定は当該警備業務の2級合格証明書の交付を受けた後、**3年**以上従事しなければならない。

A:3年ではなく1年の従事が必要。

Q-⑫ 警備業は**ボランティア活動**で行った事故防止業務も含まれる。

A:ボランティア活動は警備業ではなく奉仕活動。

模擬テスト⑤

Q-⑬ 警備員は現行犯逮捕した場合、警察に引き渡す前に凶器などかくしてないか取り調べ行為等が出来る。

Q-⑭ 交通誘導警備業務を実施中に、緊急車両が接近してきた場合、周辺を通行する一般車両に対して、警察官と同様に法令に基づく交通整理を行う事が出来る。

Q-⑮ 国家公安委員会では警備業務の実施の適性を図るため、種別に応じて検定を行い、合格証明書を交付することとされている。

模擬テスト⑤答え

Q-⑬ 警備員は現行犯逮捕した場合、警察に引き渡す前に凶器などかくしていないか **取り調べ行為**等ができる。A: 現行犯逮捕は出来るが、取り調べ行為は出来ない。

Q-⑭ 交通誘導警備業務を実施中に、緊急車両が接近してきた場合、周辺を通行する一般車両に対して、警察官と同様に法令に基づく**交通整理**を行う事が出来る。

A: 業務は交通誘導。強制・命令出来る交通整理は出来ない。

Q-⑮ **国家公安委員会**では警備業務の実施の適性を図るため、種別に応じて検定を行い、合格証明書を交付することとされている。

A: 合格証明書を交付できるのは都道府県公安委員会。

模擬テスト⑥

- Q-①⑥ 脱帽時の敬礼は上半身を約45度傾けて行う。
- Q-①⑦ 着帽時の敬礼は、受令者を離れること約2歩のところで挙手注目の敬礼を行う。
- Q-①⑧ 「休め」の号令ではその場で左足を約30センチ横に開き、体重は両足にかける。
- Q-①⑨ 「回れ右」の号令では両つま先を軸に180度右に回る。

模擬テスト⑥答え

Q-①⑥ 脱帽時の敬礼は上半身を約**45度**傾けて行う。

A:脱帽時の敬礼は約15度。

Q-①⑦ 着帽時の敬礼は、受令者を離れること約**2歩**のところ拳手注目の敬礼を行う。

A:受令者との距離は約6歩。

Q-①⑧ 「休め」の号令ではその場で左足を約**30センチ**横に開き、体重は両足にかける。

A:開く足幅は約20センチ。

Q-①⑨ 「回れ右」の号令では**両つま先を軸**に180度右に回る。

A:軸にするのは両かかと。